

## 「村上市地域福祉計画（第2期）」アンケート調査結果

## 調査の概要

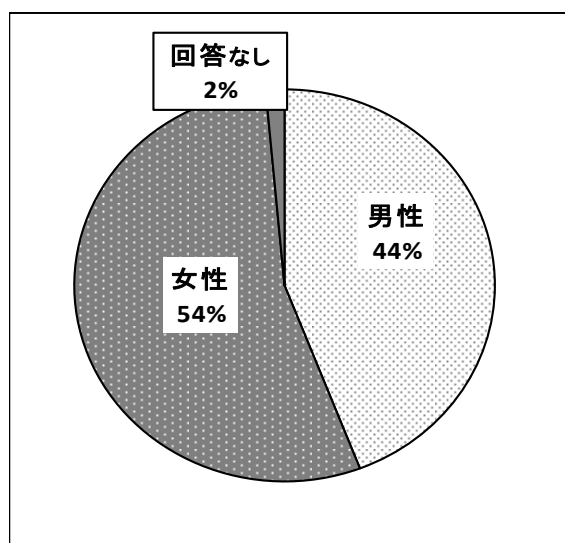
- ① 調査期間 令和3年7月13日～令和3年8月2日  
 ② 調査対象 令和3年4月1日現在20歳以上の1,000人  
 ③ 調査方法 無記名式の調査票を郵送により配布、回収  
 ④ 回答状況 557件（配布者：郵送回答：531件、Web回答：23件  
 配付以外HP回答：3件）

区分	配布数	回答数	回答率
全 体	1,000	554	55.4%
村上地区	437	242(2)	55.4%
荒川地区	168	85(1)	50.6%
神林地区	145	82	56.6%
朝日地区	155	91	58.7%
山北地区	95	49	51.6%
HP 回答	—	3(3)	—

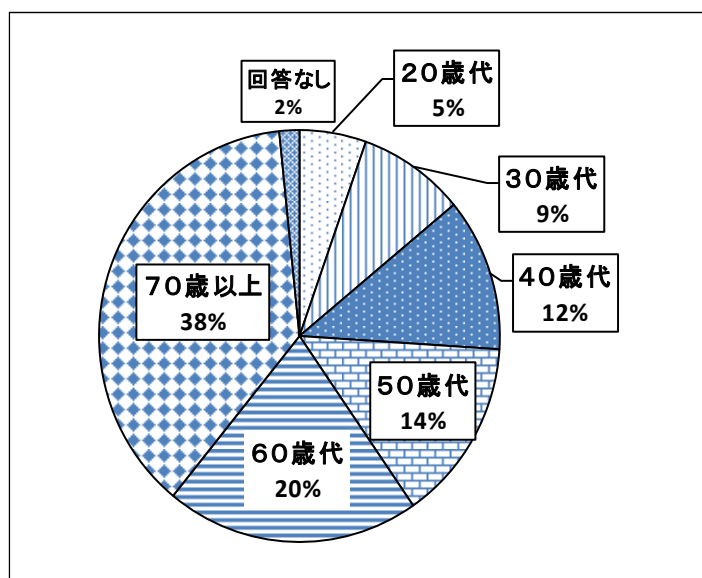
※地区不明 8

## あなたとご家族について

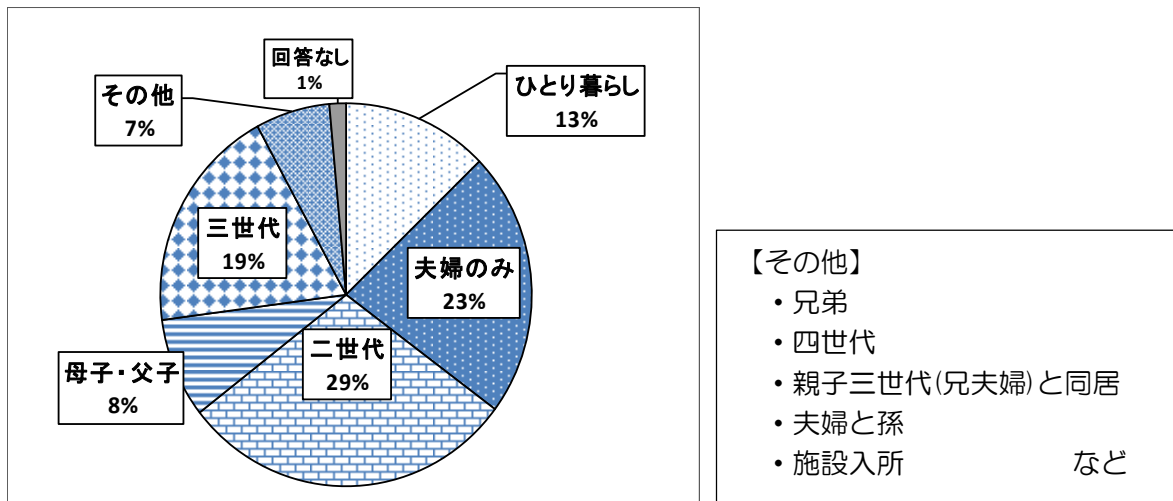
問1 あなたの性別は



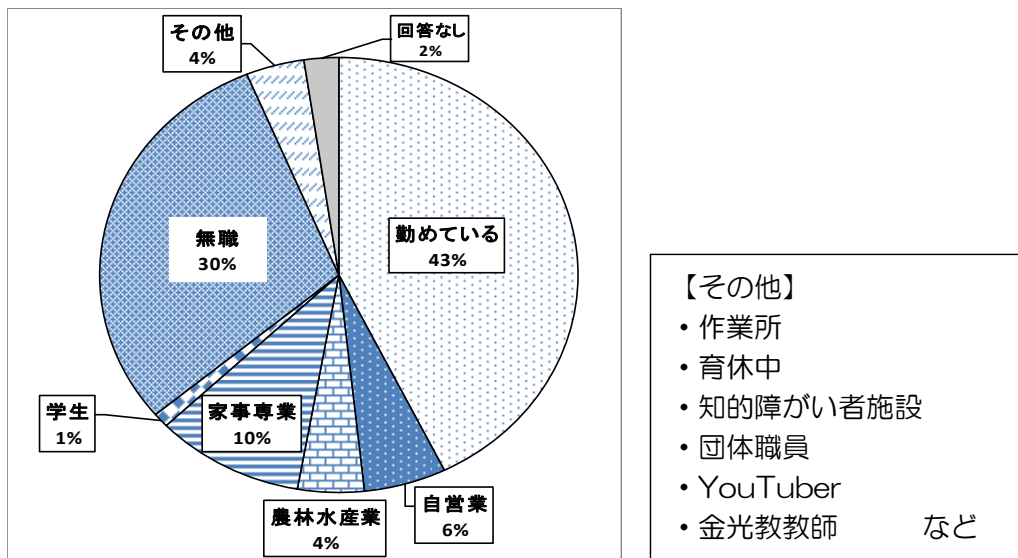
問2 あなたの年齢は



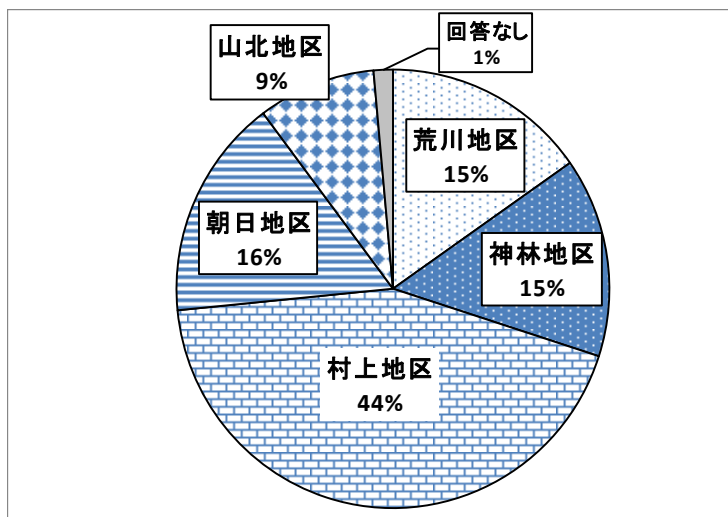
問3 家族構成についてお答えください



問4 あなたの職業は何ですか。兼業等の場合は主なものをお答えください

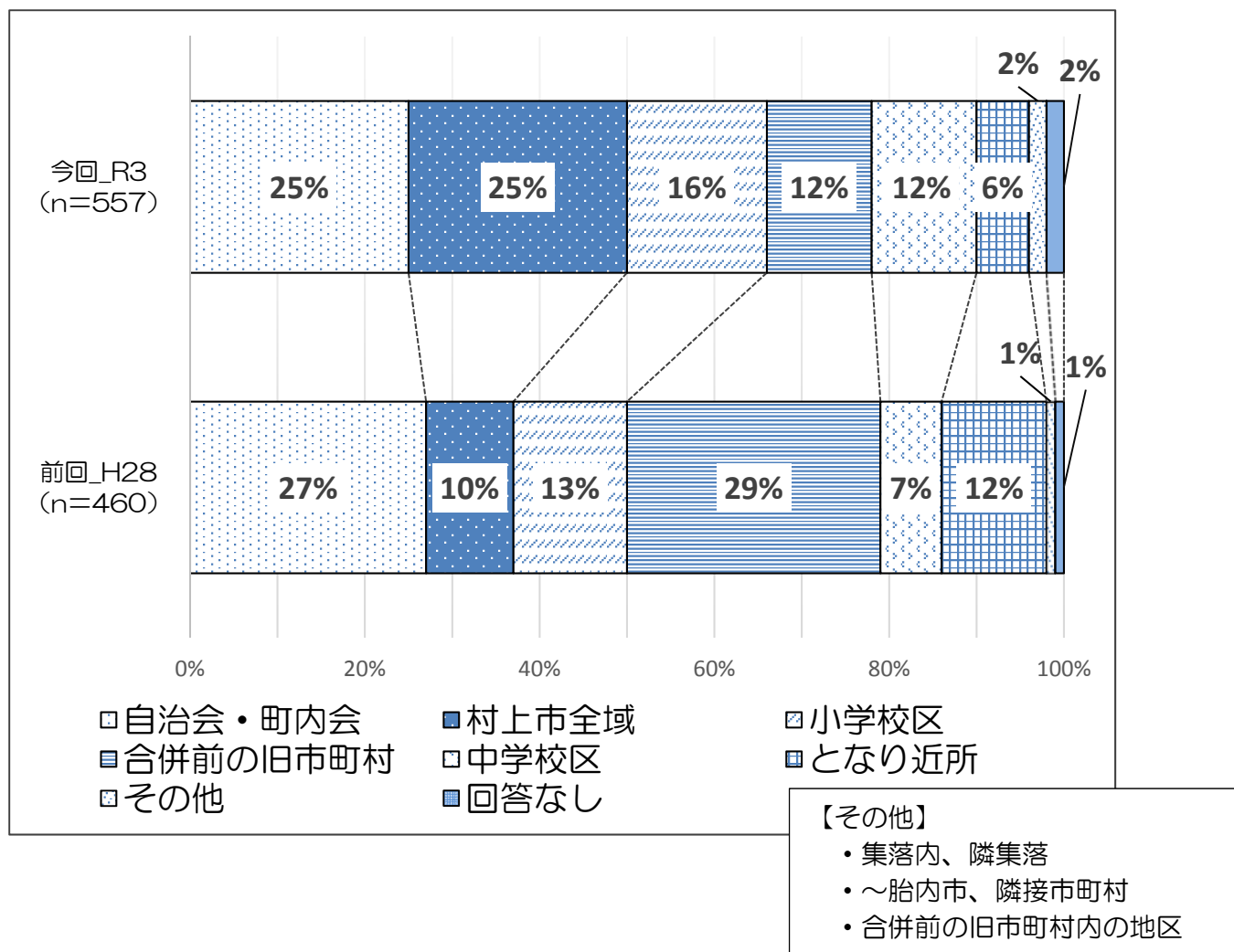


問5 お住まいの地区はどちらですか



## お住まいの地域について

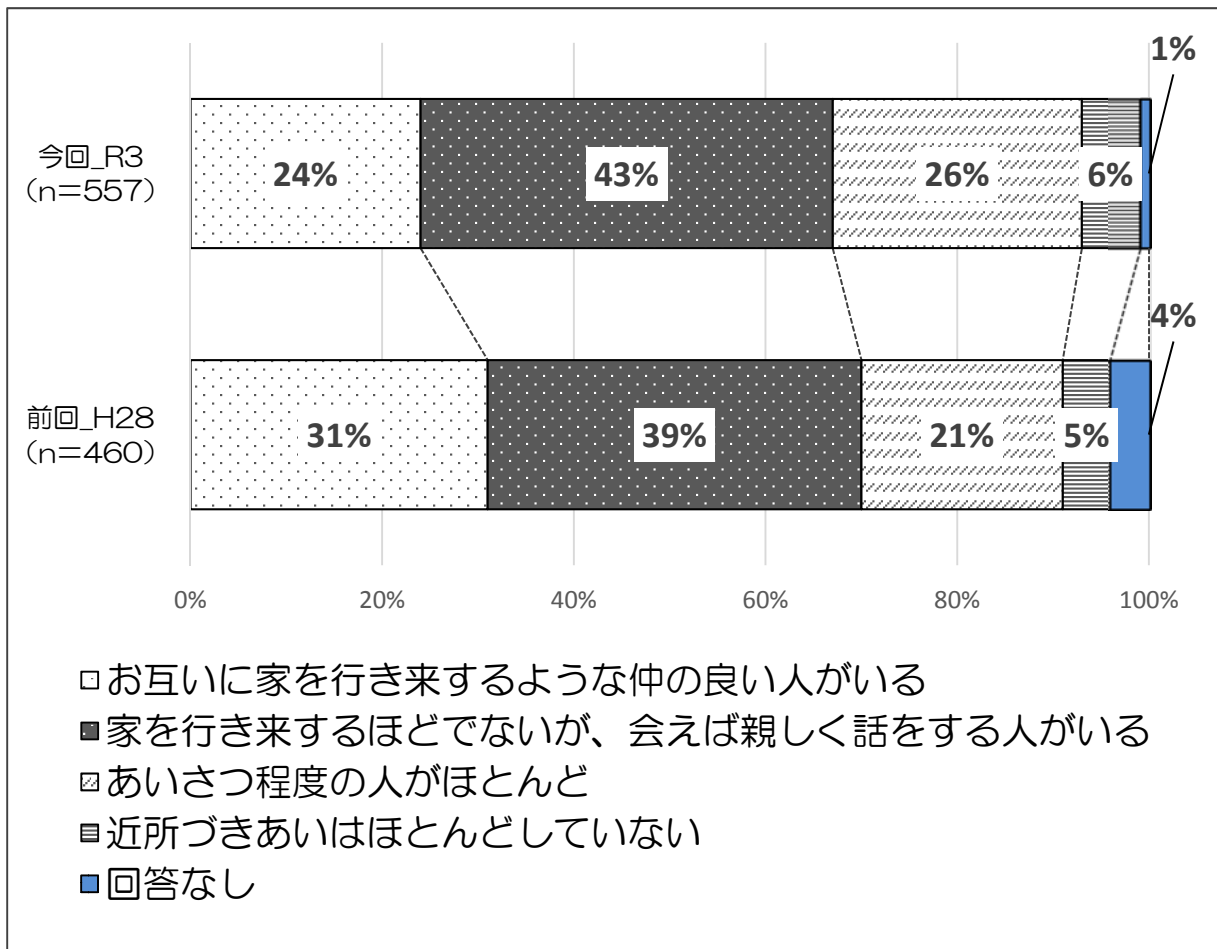
問6 あなたにとって「地域」と感じるのはどのくらいの範囲ですか



### 【前回調査との比較】

「自治会・町内会」は前回同様 1/4 程度であるが、「合併前の旧市町村」が大きく減り、「村上市全域」が増え、「地域」への意識がより広域的に変化してきていることが伺える。

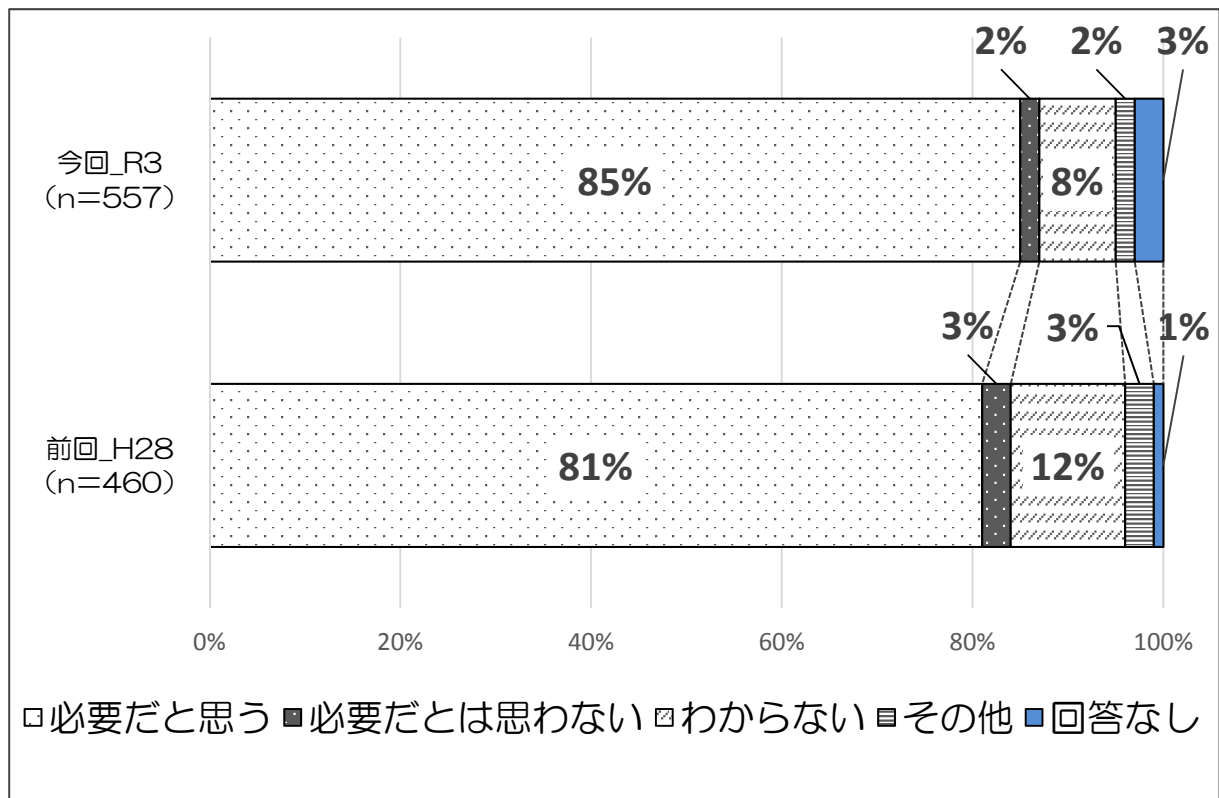
問7 あなたは、ふだんどのような近所づきあいをしていますか



【前回調査との比較】

「お互いに行き来するような仲の良い人がいる」が減り、「家に行き来するほどではないが、会えば親しく話をする人がいる」及び「あいさつ程度の人がほとんど」が増え、近所づきあいの希薄化が伺える。※但し、コロナ禍の影響もあると思われる。

問8 地域で暮らす住民同士の自主的な支え合い、助け合いについて、どのように思いますか



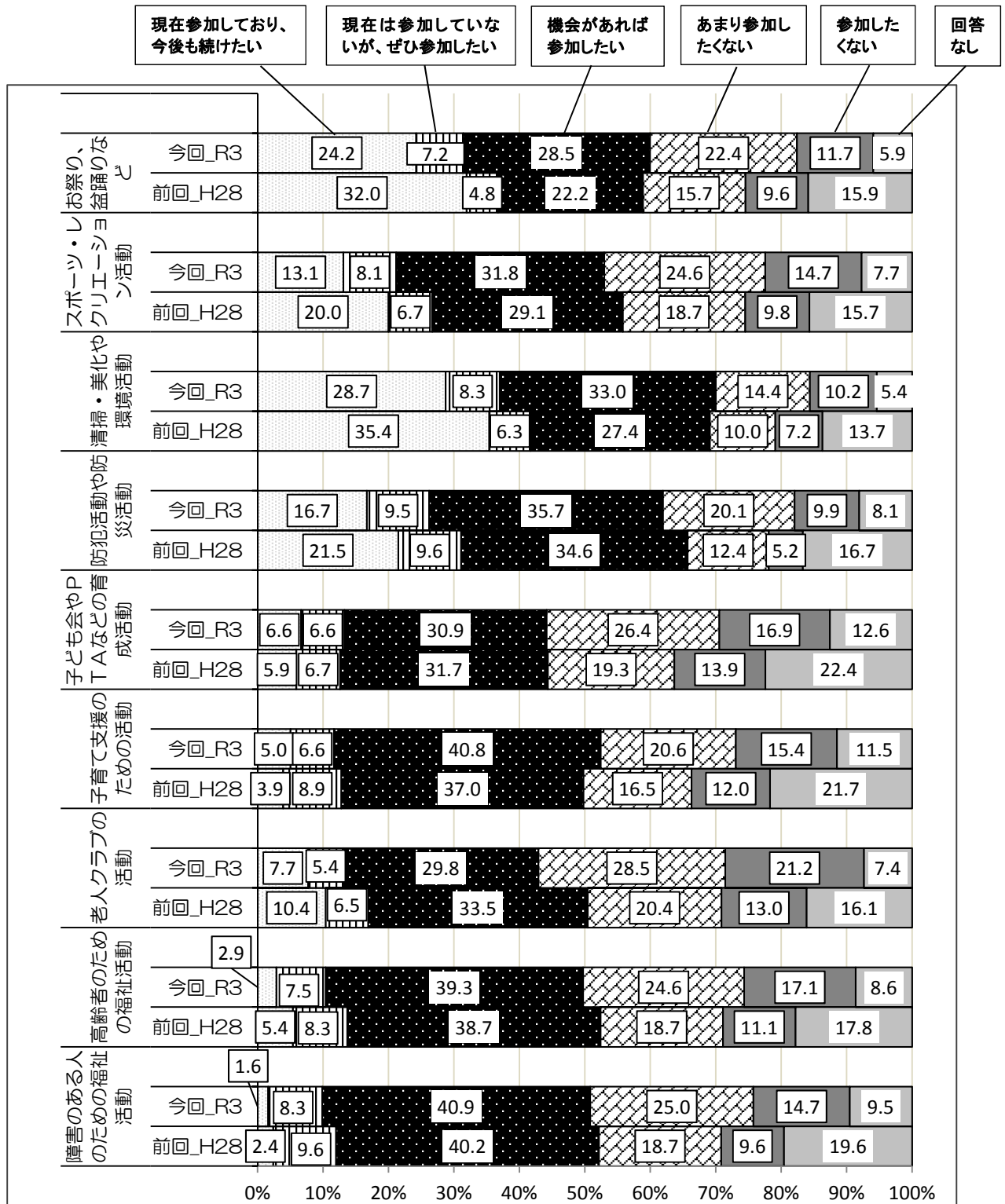
【その他】

- ・助けることはあっても助けられることはないと思う
- ・やめたほうが多いものが多いと思う
- ・以前ほど必要に思わなくなった
- ・町内で決められたことは守りたい
- ・本当に助けを必要としている場合はするべきだと思う
- ・必要だと思うが、人間関係が…
- ・必要だと思うが、個人情報等で進まない
- ・必要だと思うが、仕切りたがる方が考えを押し付けてくるので面倒に思う
- ・不要ではないが、公助が先
- ・特に力を入れず、普通でいいと思う
- ・今後は集落単位でなくなると思う
- ・必要だとは思いますがそれが100%だとは思わないなど

【前回調査との比較】

「必要だと思う」が前回同様8割を超えている。且つ微増しており、住民同士の自主的な支え合い、助け合い、「共助」意識の高さが伺える。

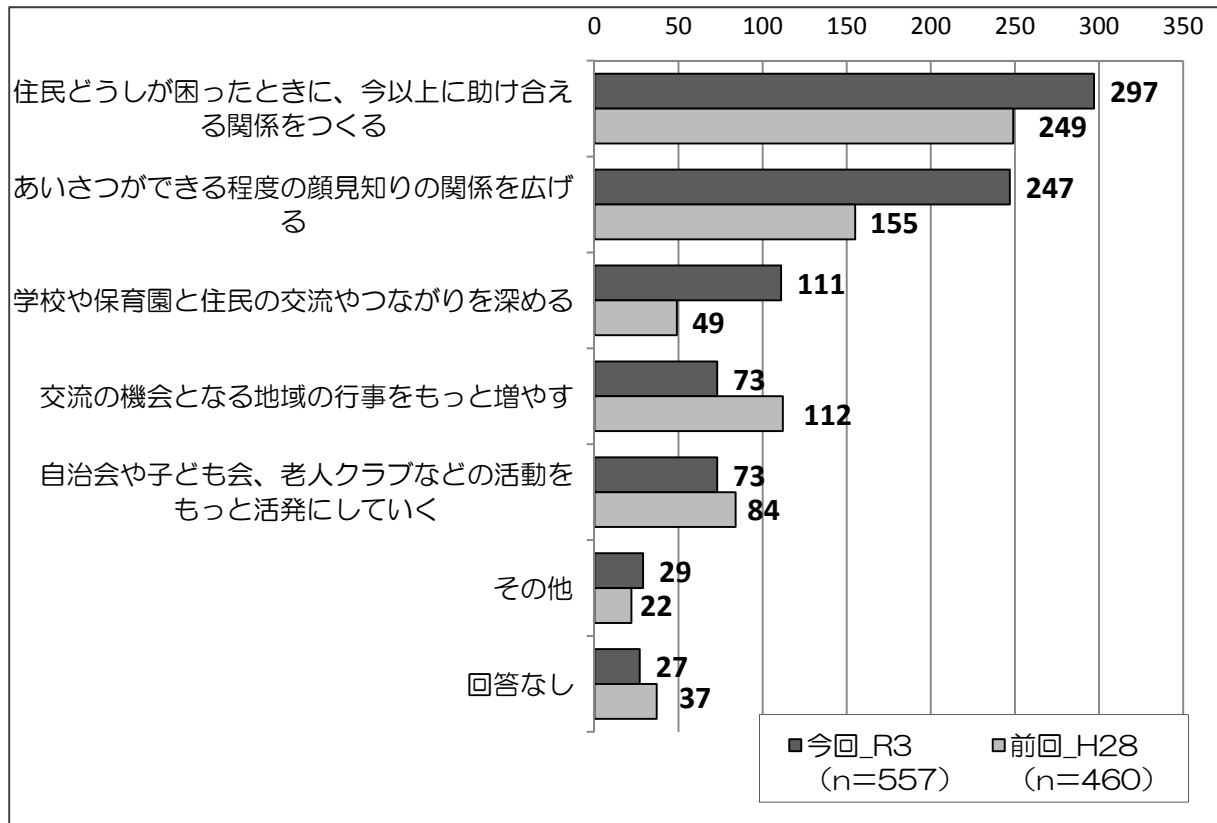
問9 お住まいの地域で行われている行事や活動などに参加していますか



【前回調査との比較】

傾向として、「現在参加しており今後も続けたい」が軒並み減少しているが、「子ども会やPTAなどの育成活動」及び「子育て支援のための活動」は増加しており、子どもに関する活動への意識の向上が伺える。

問 10 地域活動や行事がさらに活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか（〇は2つまで）



【その他】

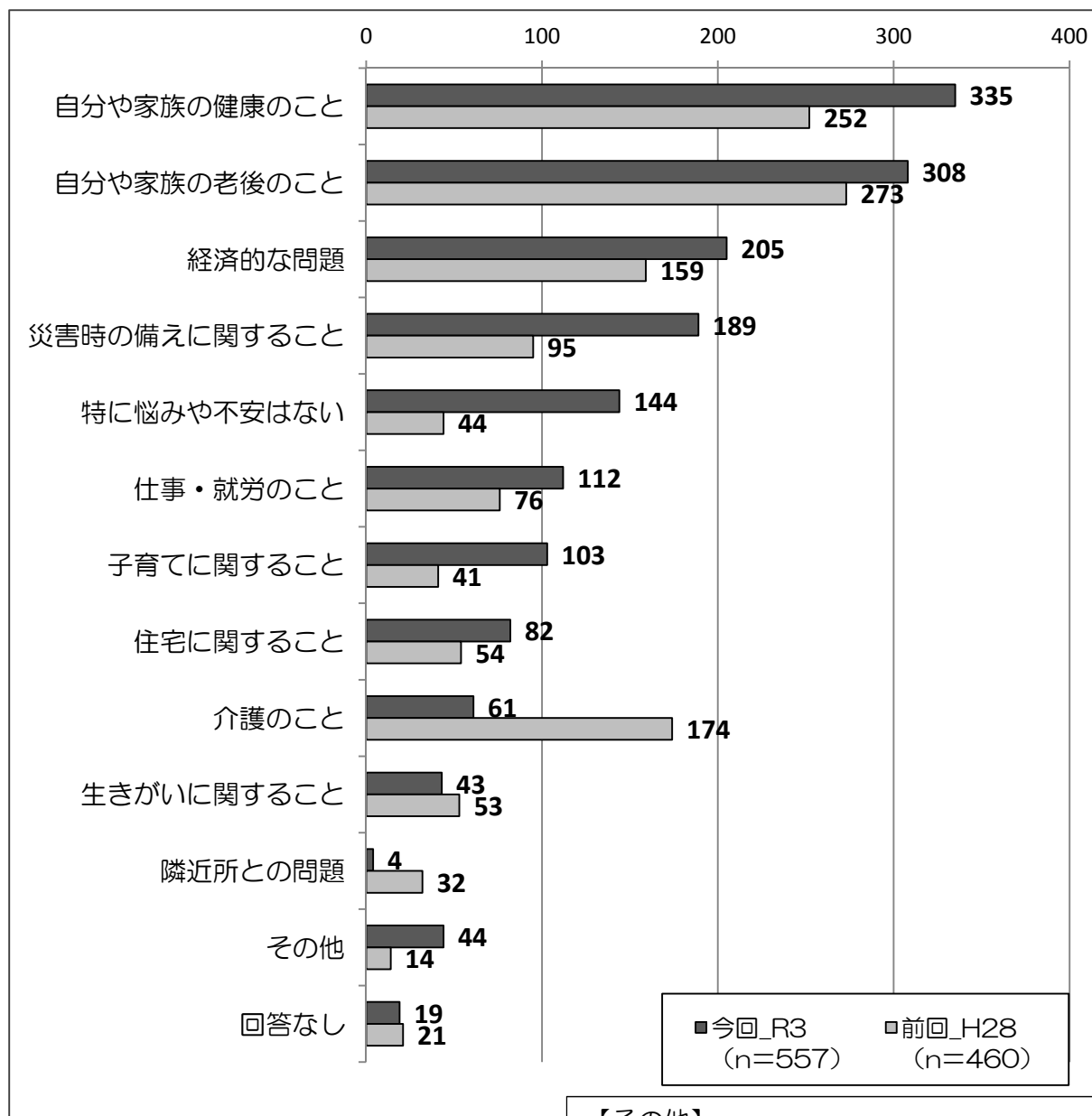
- ・やる必要がない。やりたい人だけやって。強制されるのは嫌だ。
  - ・昔と現在の地域住民の付き合い方が変わってしまっている。個・家族を中心とし、あまり干渉し合わなくなってしまった。変えるのが難しい。
  - ・自分の今の生活だけでこの先広げるのは無理だと思っている
  - ・活発にしなくていいと思う
  - ・高齢化が進んでおり、だんだんできなくなっている。
  - ・地域から(村上市)何か起業して人口を増やす。
  - ・地域活動を活発に行うことに疑問がある。それ以前に人口流出などの課題に取り組むべき。
  - ・いつ・どこで・誰が・どのような内容で等、魅力を伝えるための広報のあり方の工夫が足りないように思います。また行ってみたい、参加してみたい、という気持ちになってもらうためには地域活動や行事の活動内容の工夫も必要だと思います。
- など

【前回調査との比較】

「住民どうしが困ったときに、今以上に助け合える関係をつくる」・「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が前回同様、最も大切なことと伸ばしているものの、「交流の機会となり地域の行事をもっと増やす」・自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていく」が減少しており、地域行事への関心の減少が反映する結果となった。

## 生活するうえでの課題や地域の福祉について

問 11 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか  
(あてはまるものすべてに○)



### 【その他】

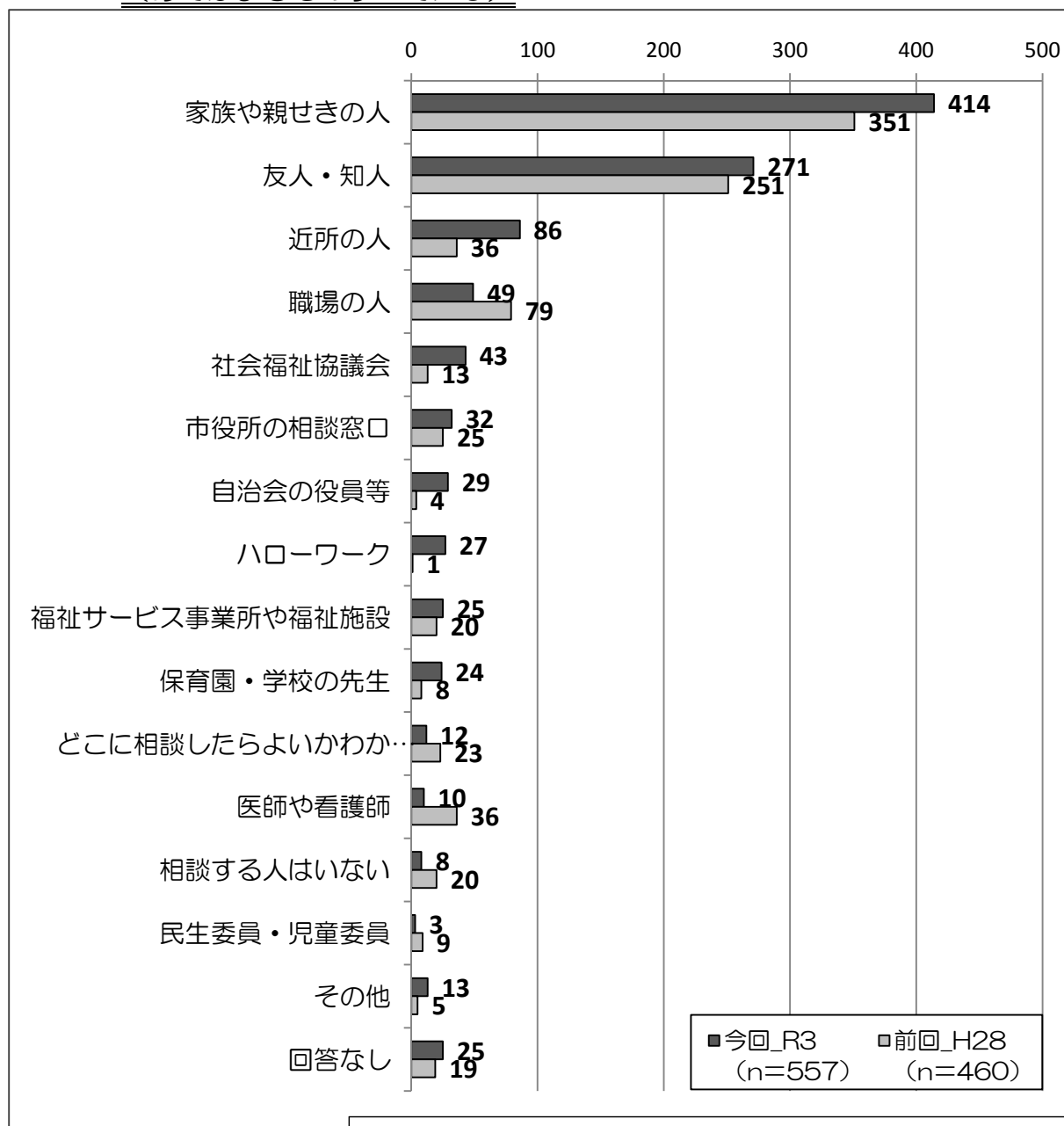
- ・年金制度
- ・空き家の放置
- ・人口流出
- ・家族に迷惑をかけたくない など

### 【前回調査との比較】

「自分や家族の健康の事」・「自分や家族の老後の事」が前回同様に、最も悩みや不安を感じている事となり、前回と比べ「災害時の備えに関すること」・「子育てに関すること」が大きく増え、「介護のこと」が大きく減っている。



問 12 ふだん悩みや不安があるときに、どんな人（場所）に相談していますか  
 （あてはまるものすべてに○）



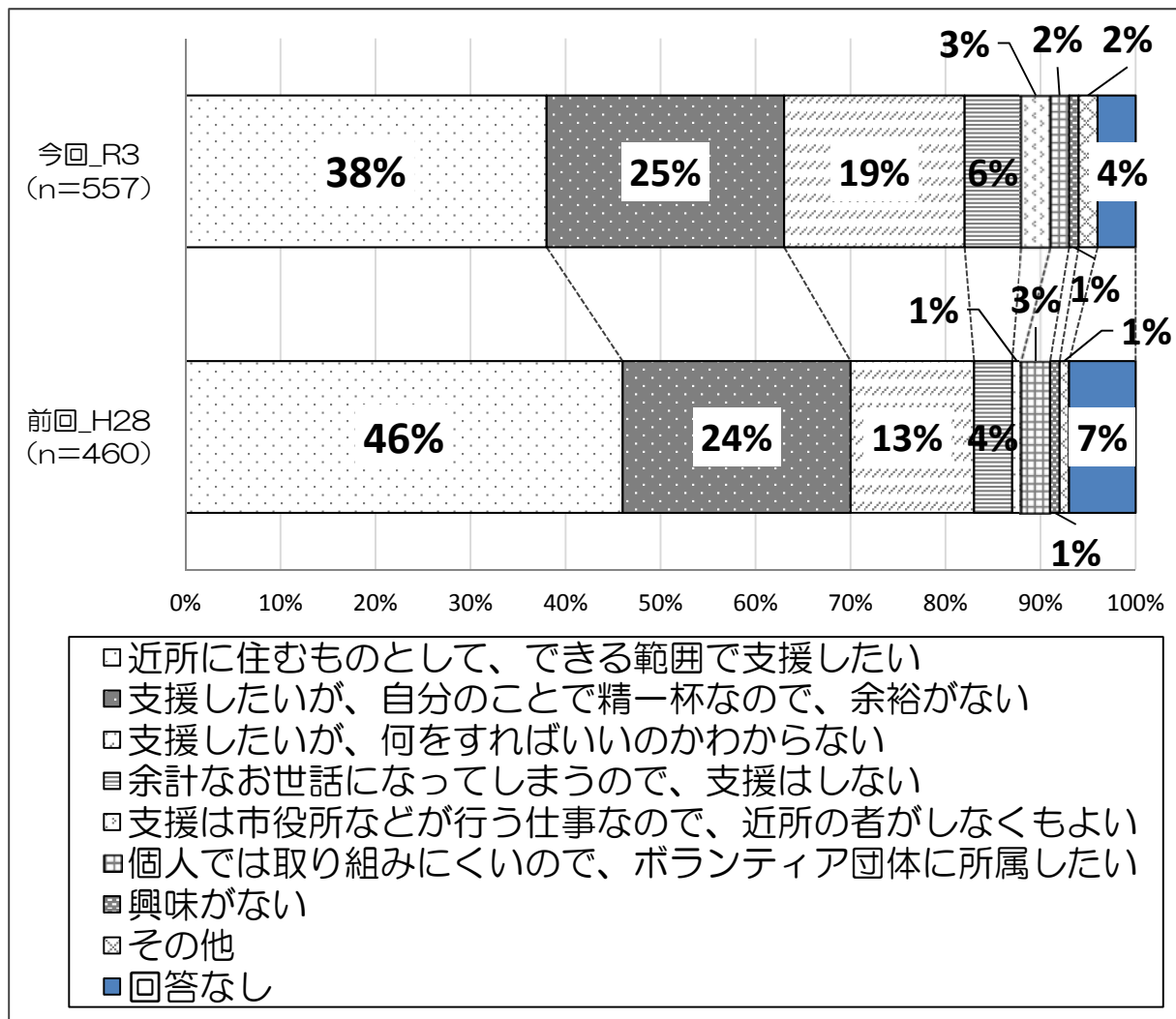
【その他】

- ・銀行
- ・ケアマネージャー
- ・SNSの友人
- ・内容により適した団体・医療機関に相談
- ・どこに相談しても解決策はない。自分で解決するしかないのでは。かえって人に広がってしまい生きづらくなる。
- ・ありがたいことに今のところ、相談するほどの大きな悩みや不安はありません。

【前回調査との比較】

「家族や親戚の人」・「友人・知人」が前回同様に上位を占め、「社会福祉協議会」・「市役所の相談窓口」・「ハローワーク」など、関係機関への相談が軒並み微増している。

問 13 あなたは、近所に困っている人がいた場合の支援をどう考えますか



- 近所に住むものとして、できる範囲で支援したい
- 支援したいが、自分のことで精一杯なので、余裕がない
- 支援したいが、何をすればいいのかわからない
- 余計なお世話になってしまうので、支援はしない
- 支援は市役所などが行う仕事なので、近所の者がしなくもよい
- 個人では取り組みにくいので、ボランティア団体に所属したい
- 興味がない
- その他
- 回答なし

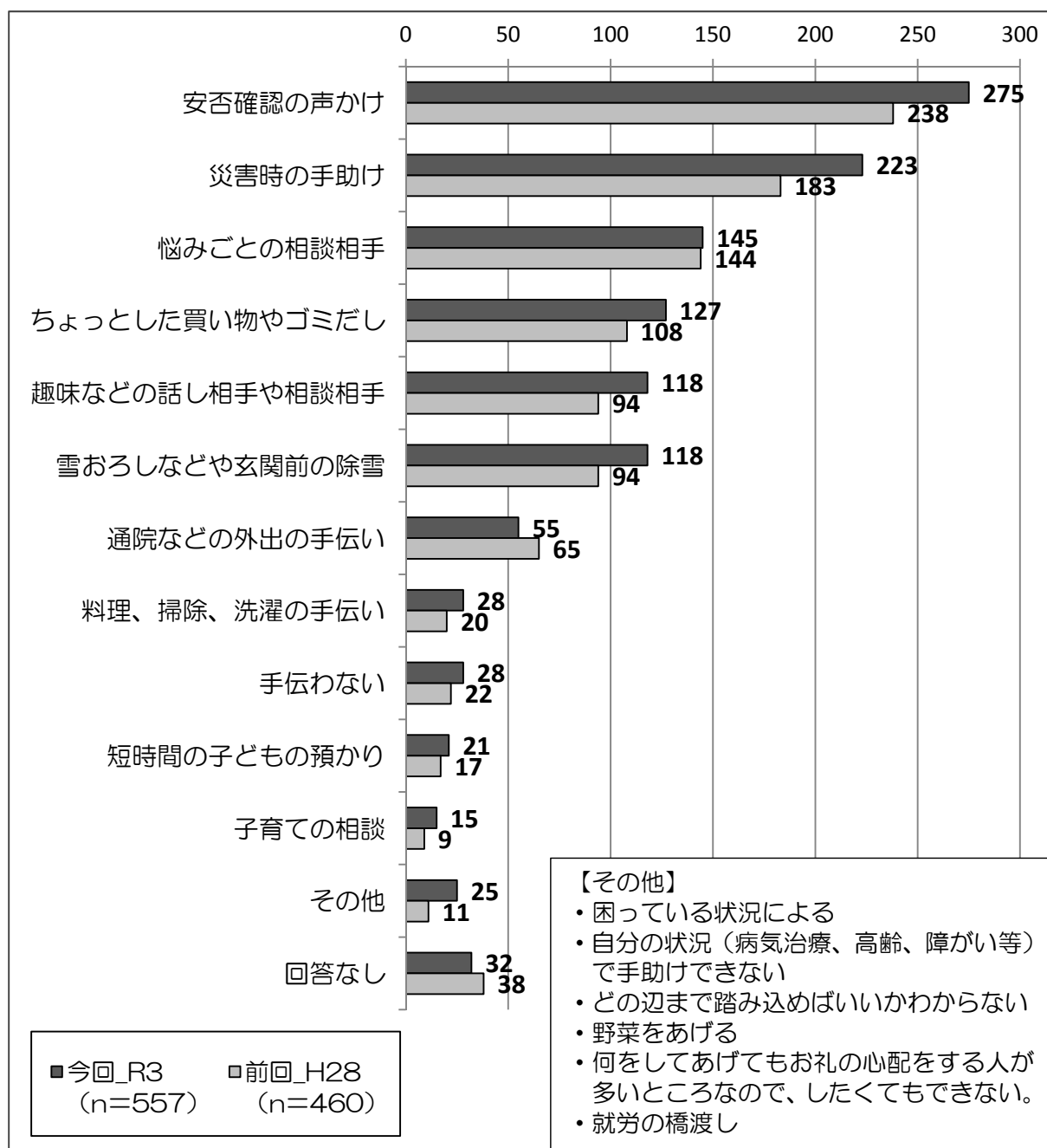
【その他】

- ・近所に誰もいない
- ・お互い様なので、今までも支援させていただきました
- ・区長・民生委員を通じての対応を考える
- ・自分の考え、専門的な支援が必要か見極め、できる範囲まで支援したら適切な機関につなげる。(公的機関等)
- ・困っている人が支援を求めてきたらできる範囲でやろうとするだろう。
- ・困っている内容による。人として可能な範囲で必要だと感じたらすると思う。状況による。
- ・近所でも仲いい人と支援しがたい人がいる。
- ・プライバシーの問題があり、踏み込むことはどうかと考えてしまう。  
など

【前回調査との比較】

「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が減ったうえ、「支援したいが何をすればいいのかわからない」が増えている。

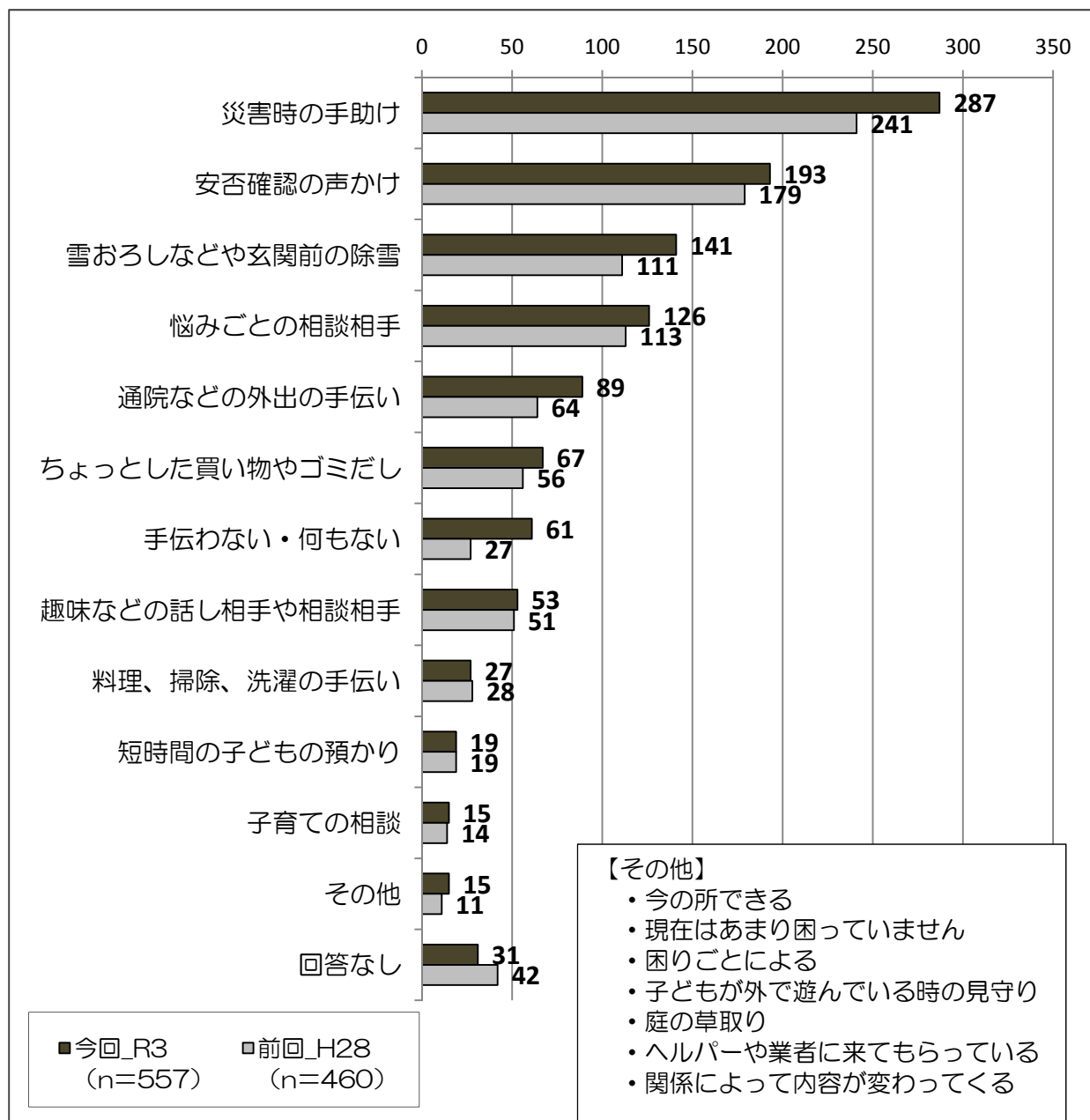
問 14 あなたの近所に困っている人がいた場合、どんな支援ができますか  
(あてはまるものすべてに○)



【前回調査との比較】

「安否の確認の声掛け」・「災害時の手助け」が前回同様上位を占め、「ちょっとした買い物やごみだし」・「趣味などの話し相手や相談相手」・「雪おろしや玄関前の除雪」が増えている。

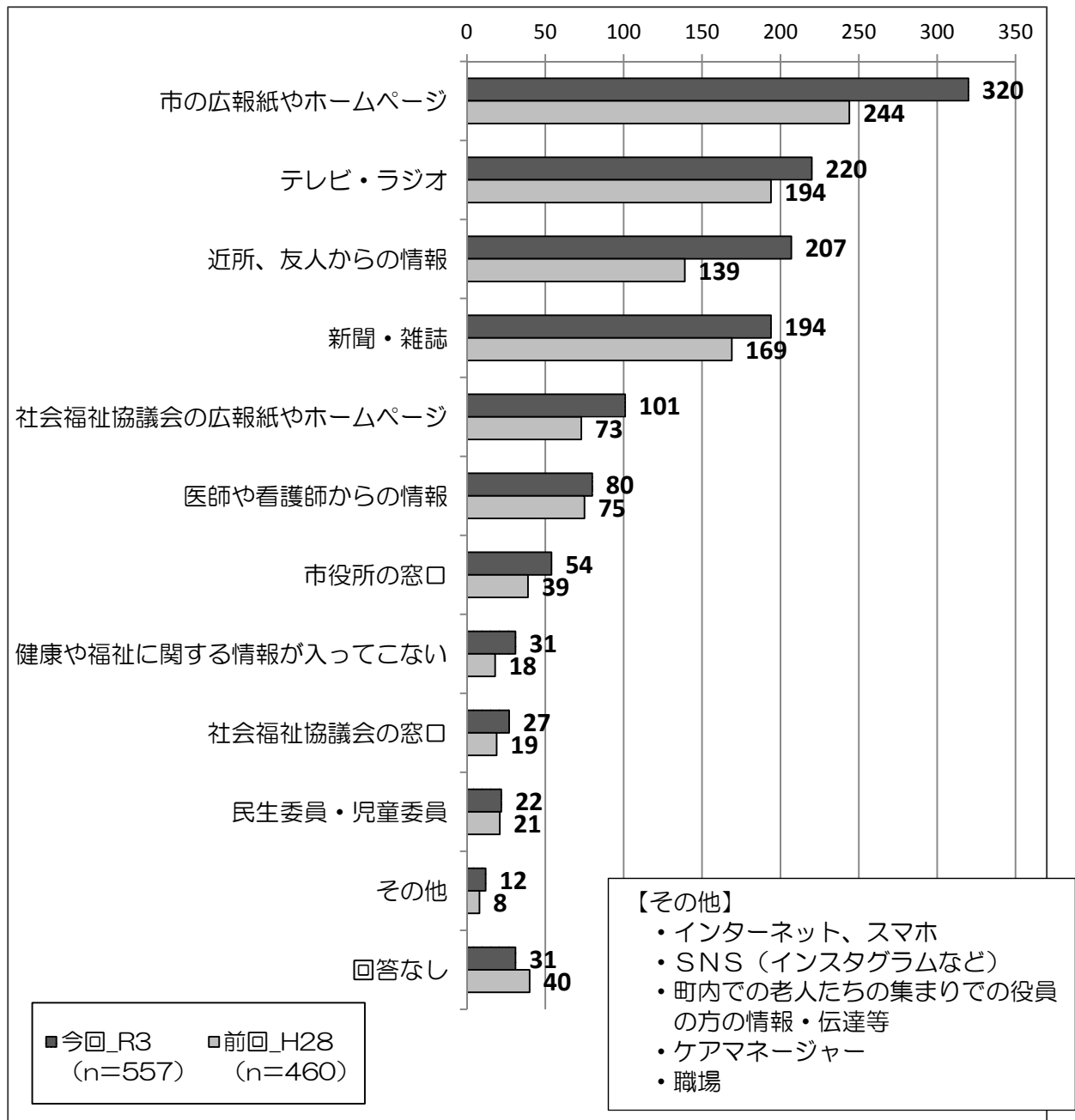
問 15 あなたやご家族が困ったとき、地域でどのような手助けをしてほしいですか  
(あてはまるものすべてに○)



【前回調査との比較】

「災害時の手助け」・「安否の確認の声掛け」が前回同様上位を占め、「雪おろしや玄関前の除雪」・「悩みごとの相談相手」・「ちょっとした買い物やゴミだし」が増えている。

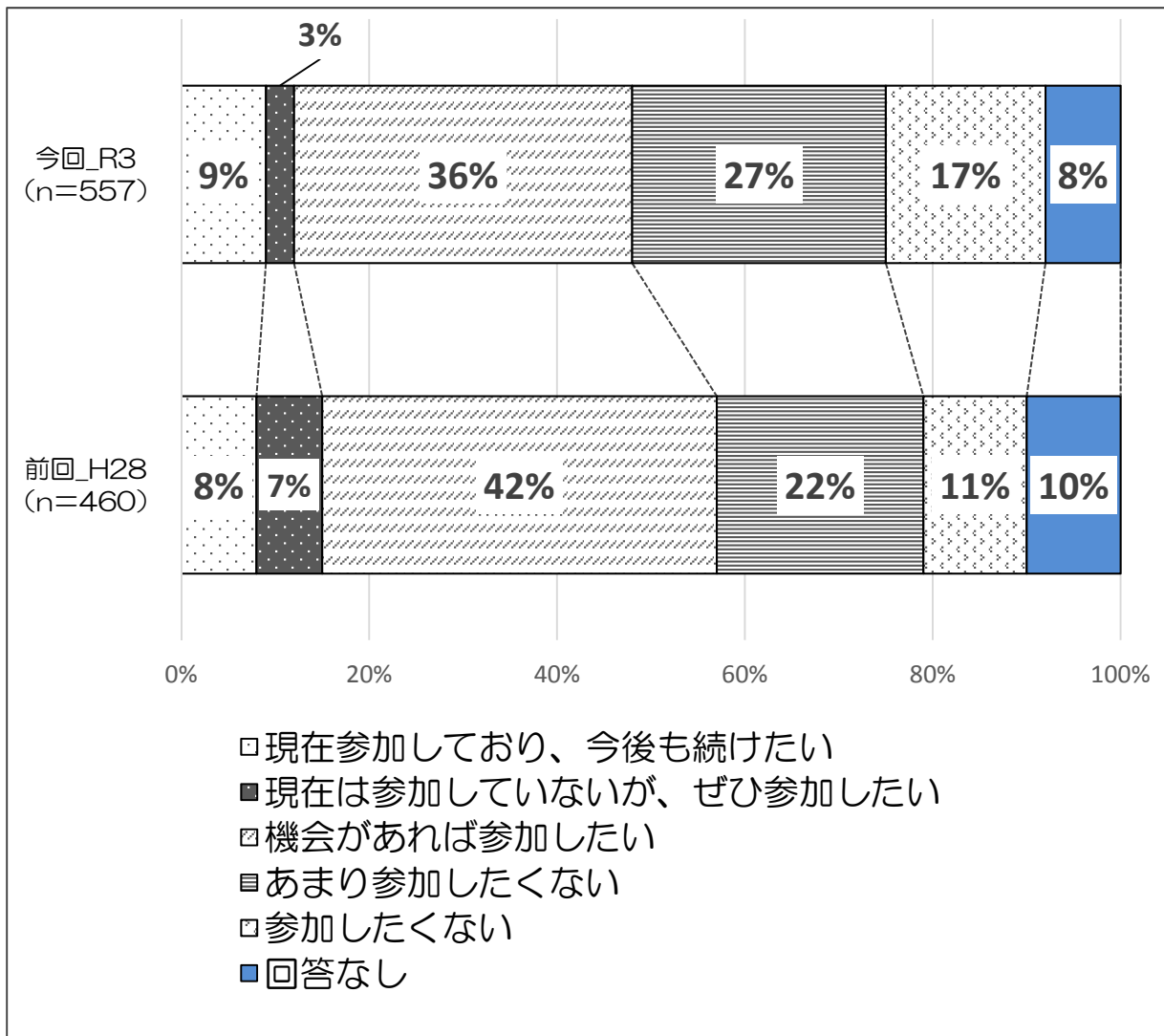
問 16 健康や福祉に関する情報を得るうえで、役に立っていると感じるものは何ですか（あてはまるものすべてに○）



【前回調査との比較】

「市の広報紙やホームページ」・「テレビ・ラジオ」が前回同様上位を占め、「近所、友人からの情報」・「新聞・雑誌」と続き、中でも「近所友人からの情報」が大きく増えている。

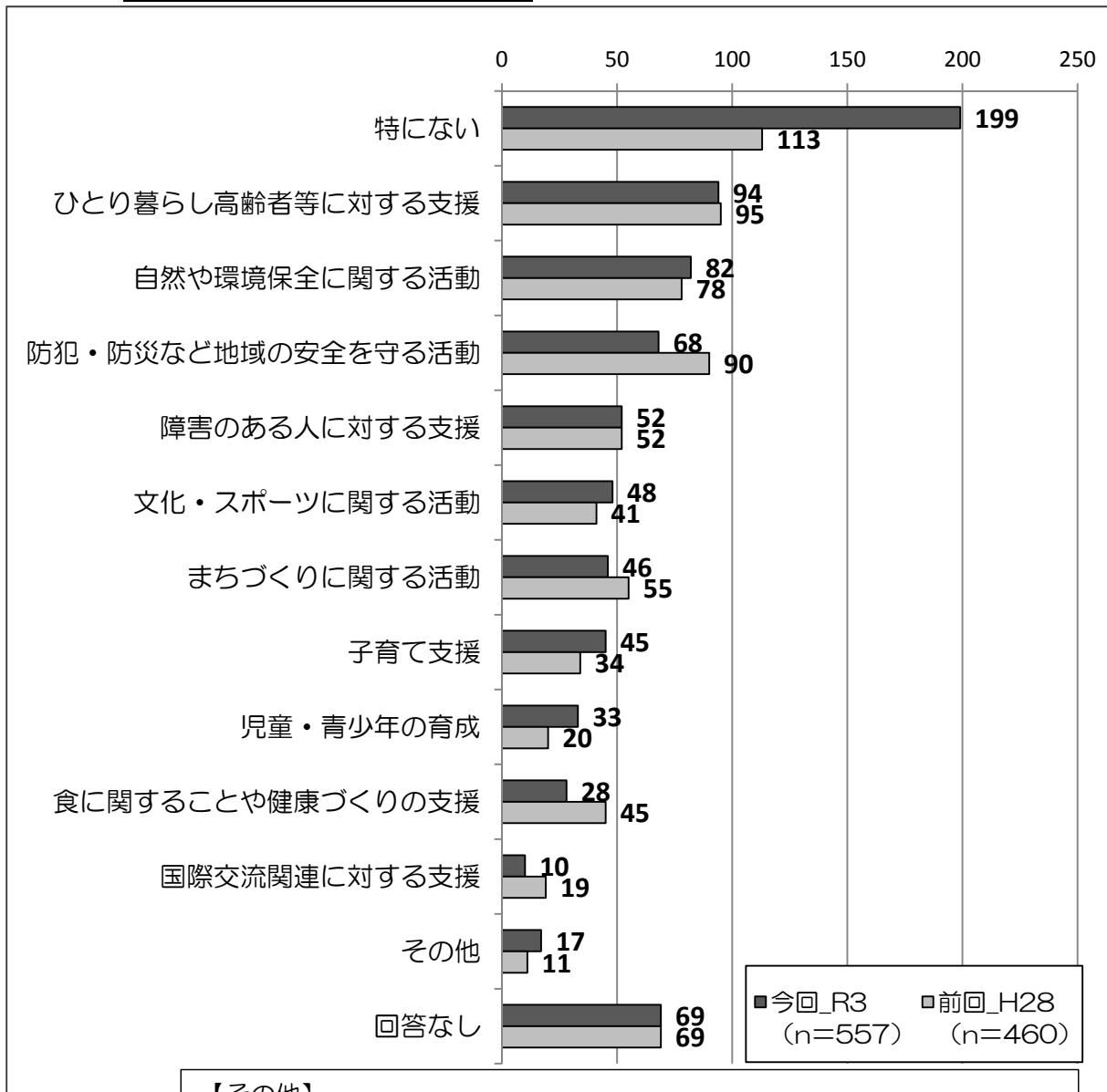
問 17 あなたは、ボランティア活動に参加していますか (1 つに〇)



【前回調査との比較】

「現在参加しており、今後も続けたい～機会があれば参加したい」が減ったうえ、「あまり参加したくない」・「参加したくない」が増えている。

問 18 今後、参加したいと思うボランティア活動などがありますか  
 (あてはまるものすべてに○)



【その他】

- ・災害が起きた時の手伝い
- ・ボランティアできる内容を知らない
- ・気持ちはあるが、高齢のため難しいができれば参加したい。
- ・自分の健康的にできない。(足腰が痛い、病気治療中、高齢等)
- ・自分のことで精一杯。
- ・優しい言葉をかけてやりたい。
- ・イメージがつかずわからない。
- ・老人施設等のタオルたたみとか簡単なこと

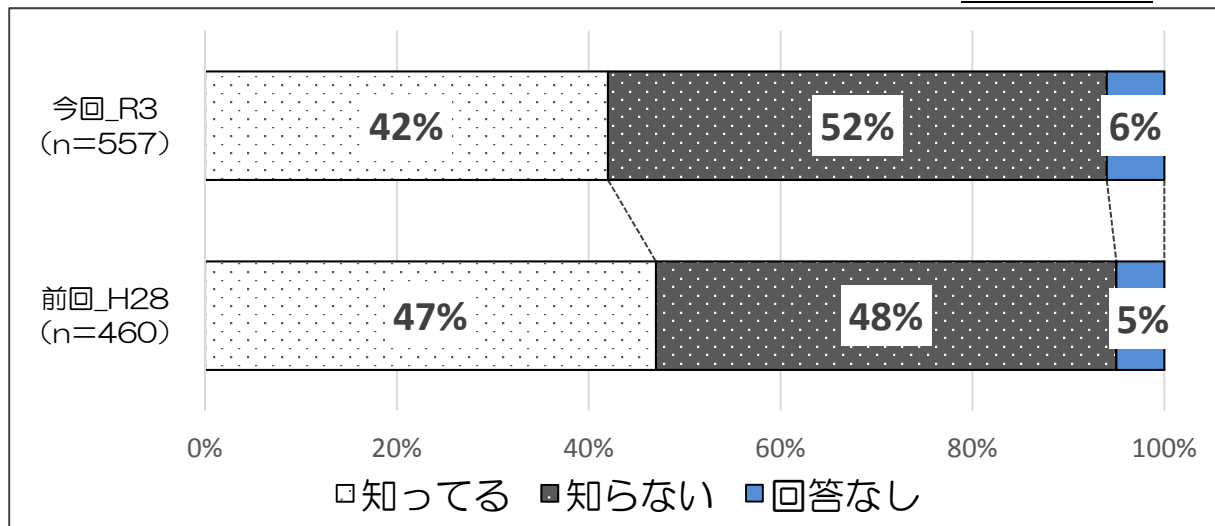
など

【前回調査との比較】

「特になし」・「ひとり暮らし高齢者等に対する支援」が前回同様上位を占め、「特になし」が目立って増えている。

## 地域福祉を進めるための取り組みについて

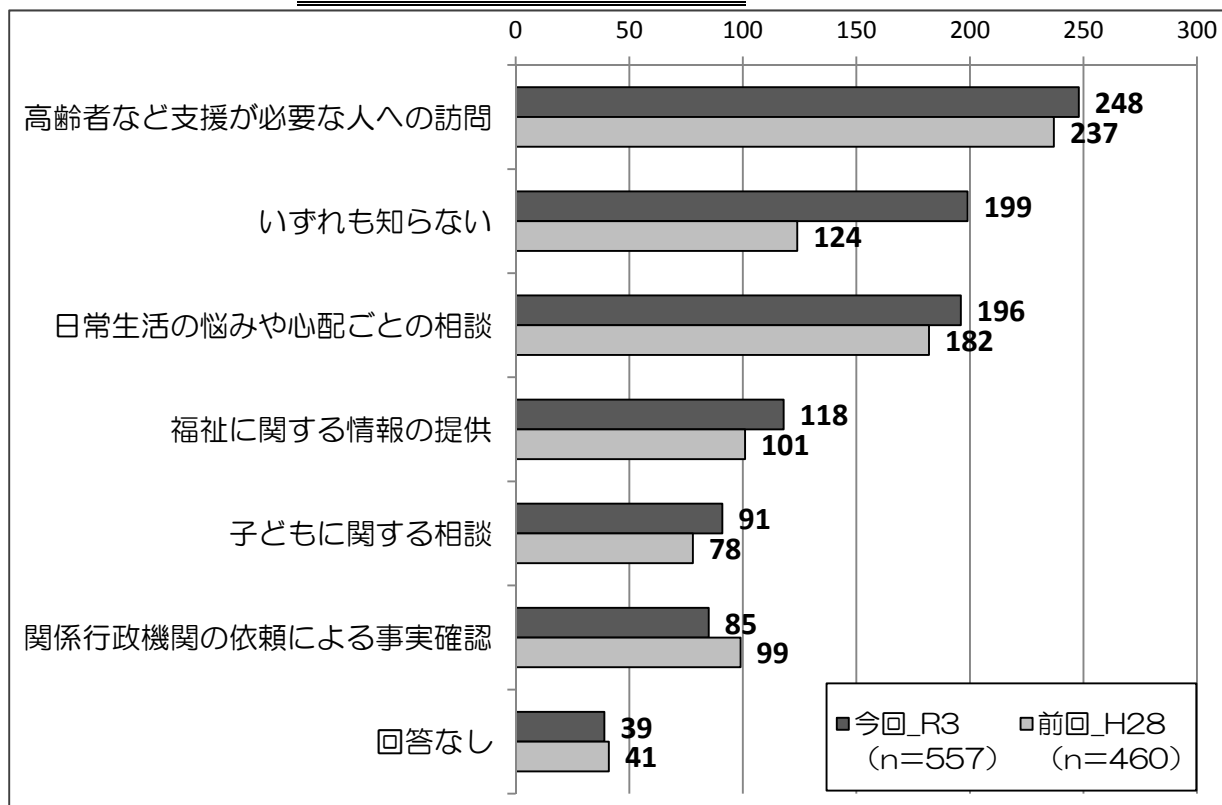
問 19 あなたの地区の担当民生委員・児童委員を知っていますか（1つに〇）



【前回調査との比較】

「知っている」が減り、「知らない」増えている。

問 20 民生委員・児童委員が、地域福祉に関する下記の活動を行っていることを知っていますか（あてはまるものすべてに〇）

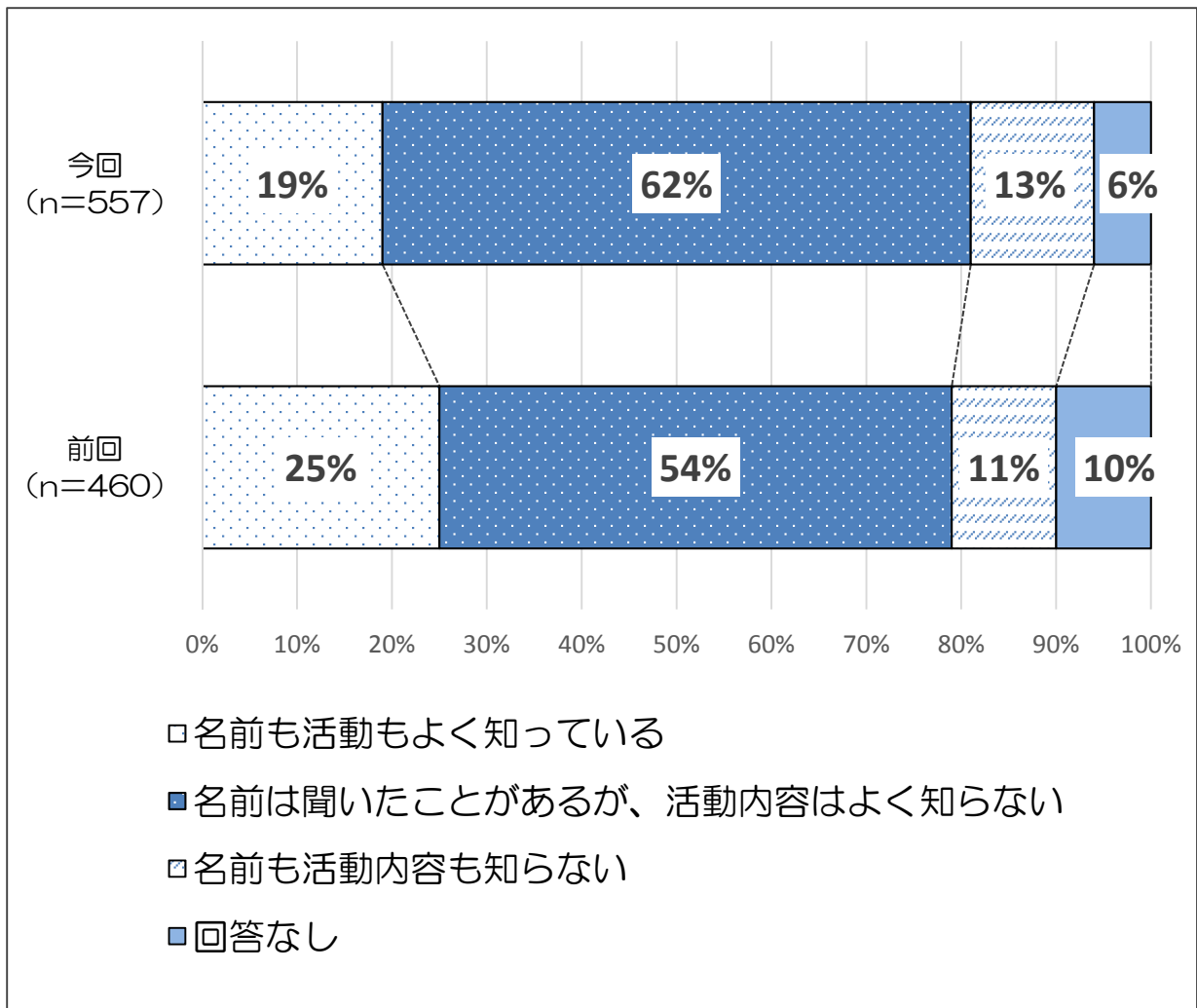


【前回調査との比較】

「高齢者など支援が必要な人への訪問」・「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が前回同様上位を占めるが、「いずれも知らない」が大幅に増えている。



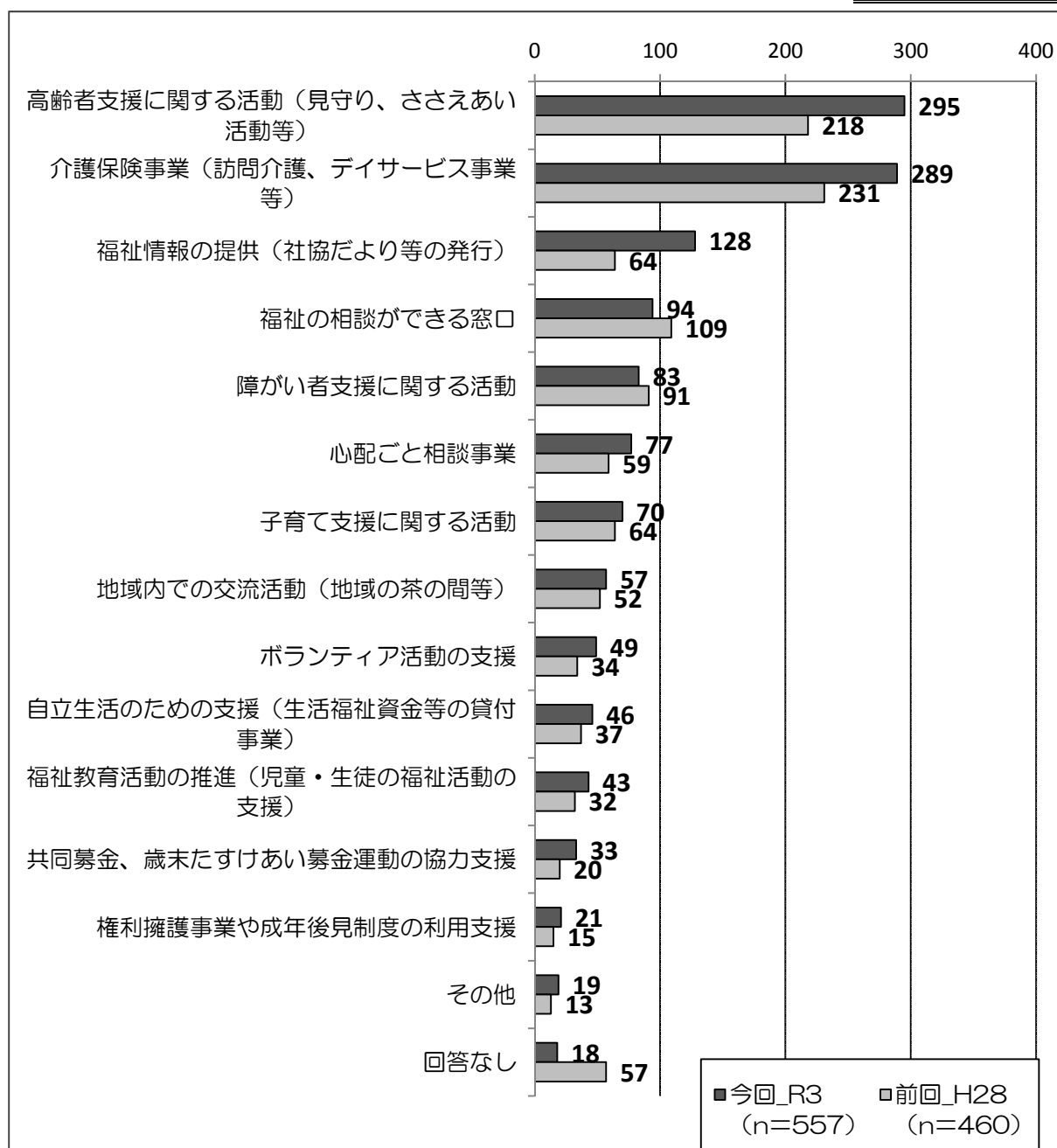
問 21 社会福祉協議会の活動について知っていますか (1 つに〇)



【前回調査との比較】

「名前も活動もよく知っている」が減り「名前は聞いたことがあるが、活動は良く知らない」が増えている。

問22 あなたは、社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか(○は3つまで)



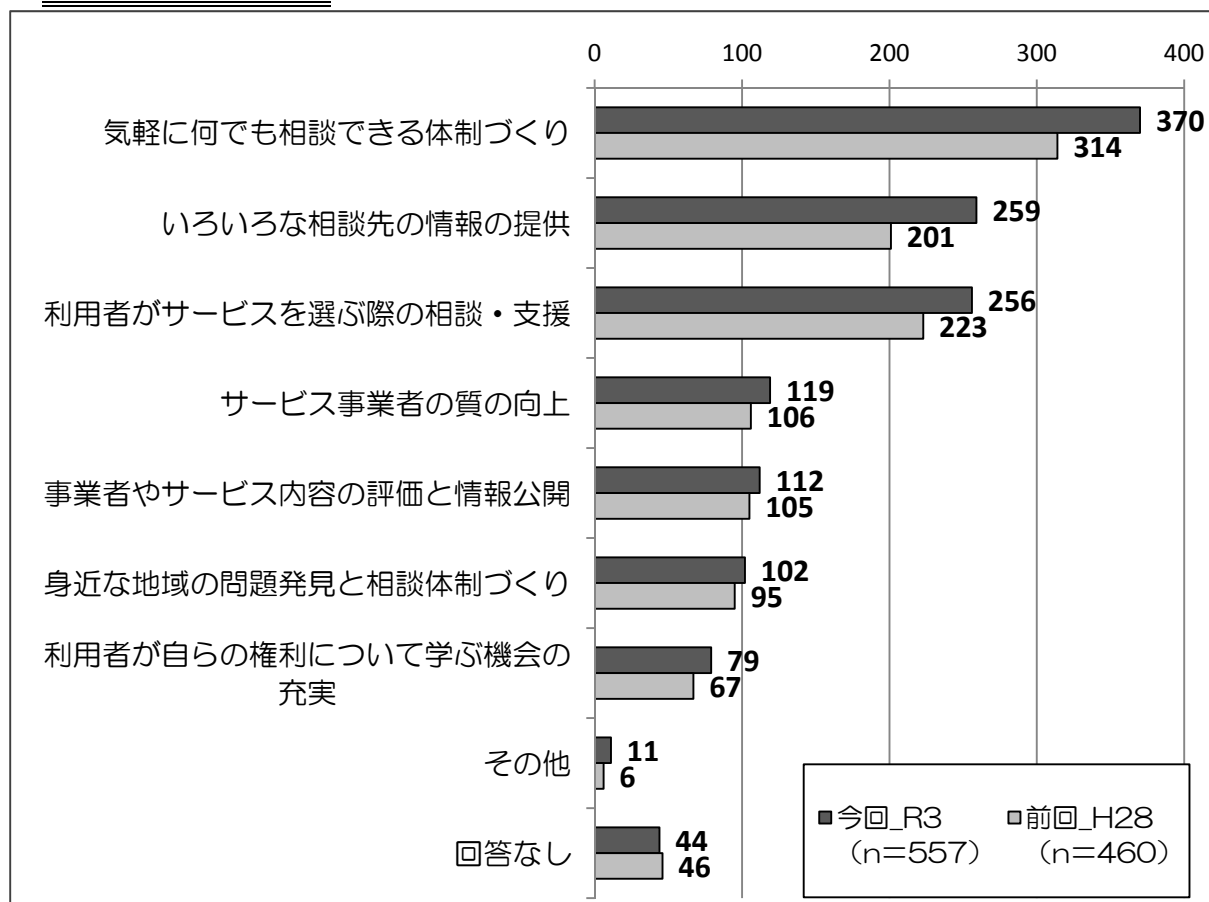
【その他】

- ・何をしているかわからないし、期待していない
- ・現在の活動内容がよくわからないので、何を期待してよいのかわからない。
- ・社会福祉協議会のそのものの存在がわからないのでなんとも言えない。
- ・組織の設置目的を知らないのわからない。
- ・公的サービスではまかなえない活動の支援
- ・私は足が悪くて困っています。バス停までやっと歩いていくのですが、町内の人は知らんぷりです。助けてください。 など

【前回調査との比較】

「高齢者支援に関する活動」・「介護保険事業」が前回同様上位を占め、「高齢者支援に関する活動」が大幅に増えている。

問 23 高齢者や障がいのある人、子ども、子育てをしている人などが必要な福祉サービスを受けることができるようにするために、どのようなことが必要だと思いますか（〇はいくつでも）



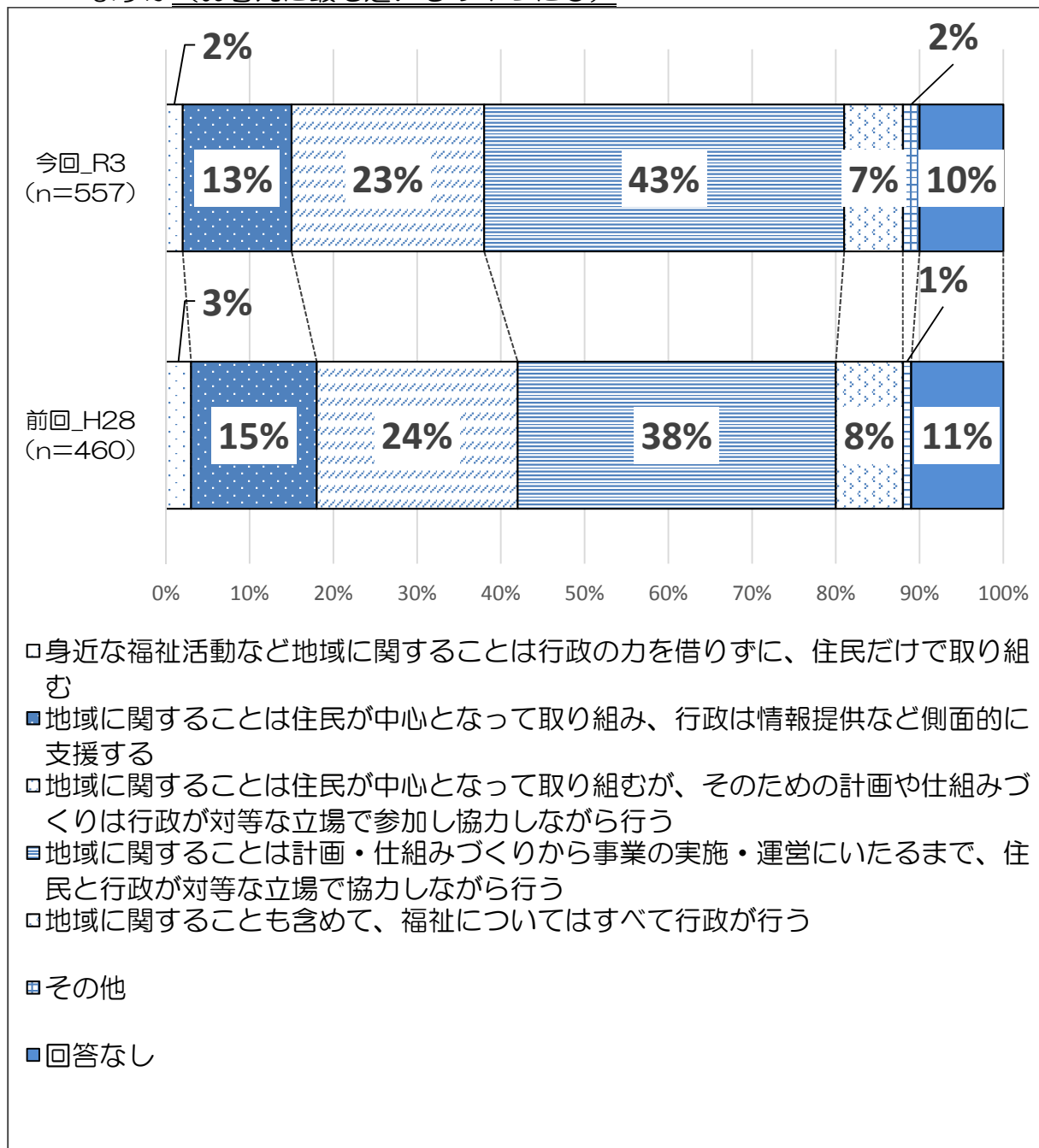
【その他】

- ・介護の認定を受けなくても利用できるサービスを増やしてほしい
- ・出張サービス
- ・この問題に関心のある人から輪を広めたほうがよいと思う。
- ・手厚い補助金等の支給
- ・サービスを本当に受けたい人は、声を、その苦しみを声に出すことがさえできない。声を拾ってみてはいかがでしょうか。社会福祉協議会です。企画も大切ですが、体を動かすこと。地味でも活動すること！！相談されるのを待つのではなく、弱者は相談することさえ困難ということをよく知った動きをすることが必要。椅子に座ってはおかしい。
- ・経済的支援の充実、経費の軽減
- ・受けられる制度についての個別連絡
- ・明確に何度もどういうサービスが受けられるか公開する
- ・子育ての駅みたいな遊具や広い体育館があって、雨でも土日でも気軽に行ける施設があってほしい。 など

【前回調査との比較】

「気軽に何でも相談できる体制づくり」・「いろいろな相談先の情報の提供」・「利用者がサービスを選ぶ際の相談・支援」が前回同様上位を占めている。

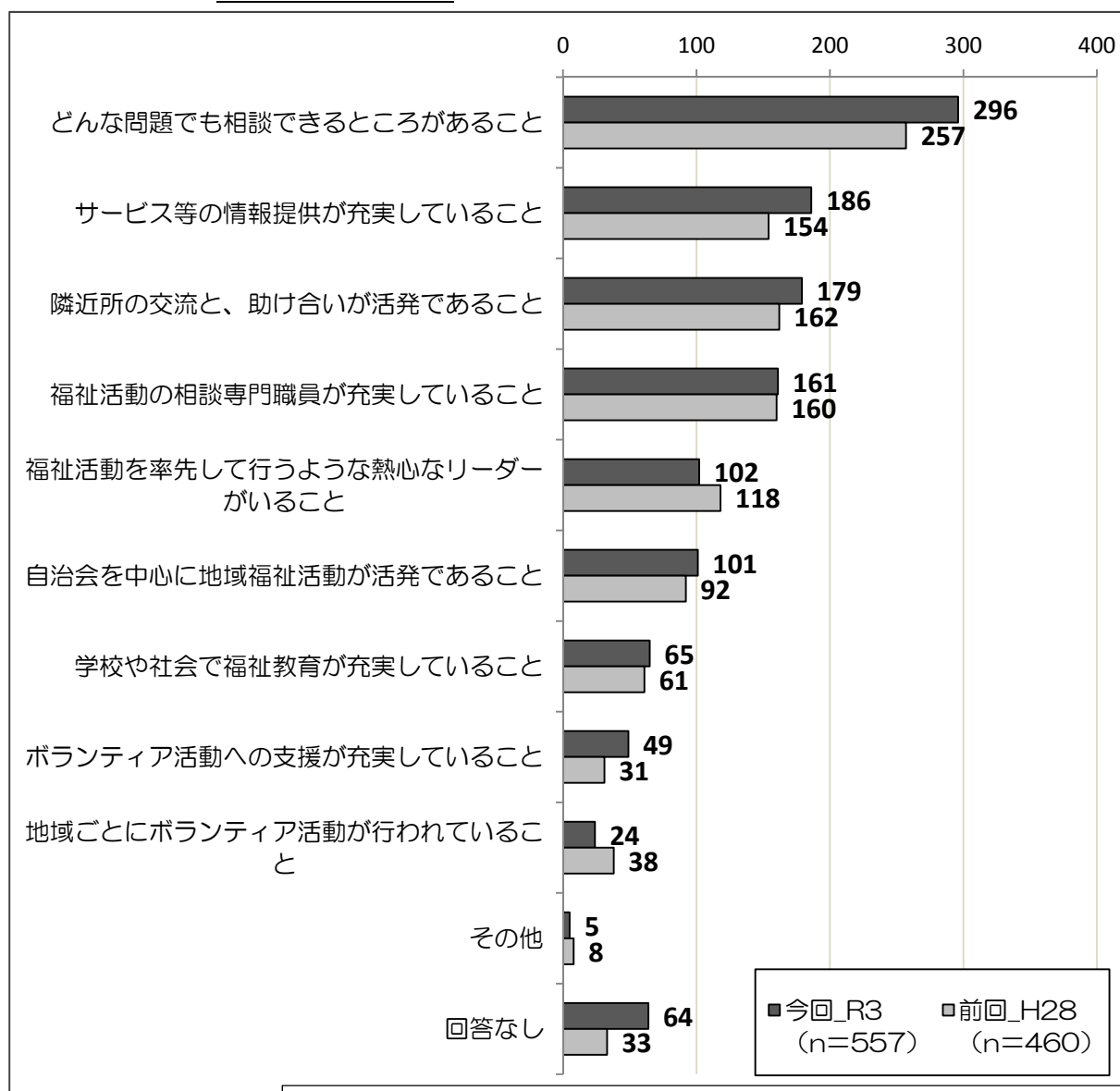
問 24 福祉をはじめとして、地域の中のさまざまな課題を解決し、よりよい地域をつかっていくためには、地域住民と行政が協力・連携していくことが大切です。あなたは、こうした協力・連携のあり方としてどのような形が望ましいと思いますか（お考えに最も近いもの1つに○）



【前回調査との比較】

「身近な福祉活動など地域に関することは行政の力を借りずに、住民だけで取り組む」が微減し、「地域に関することは計画・仕組みづくりから事業の実施・運営にいたるまで、住民と行政が対等な立場で協力しながら行う」が増加し、より住民と行政が対等な立場で協力しながら行う形が表れている。

問 25 身近な地域で住民が助け合い支え合うために、どのようなことが大切だと思いますか（〇は3つまで）



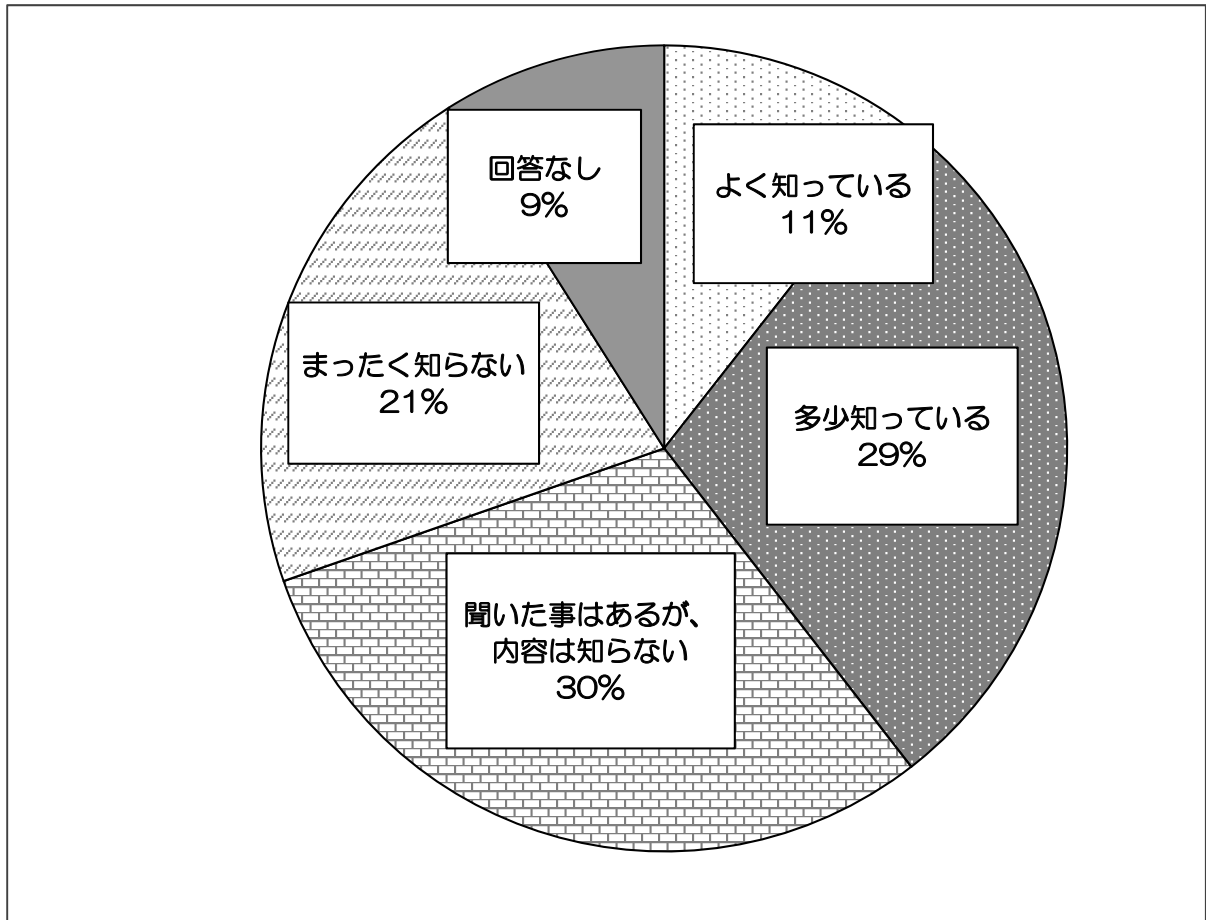
【その他】

- ・自分事としてとらえること
- ・区長が回覧版等で上記(1～9)の重要性を再三教示すること。
- ・わからない

【前回調査との比較】

「どんな問題でも相談できるところがあるところ」・「サービス等の情報提供が充実しているところ」が上位を占めている。

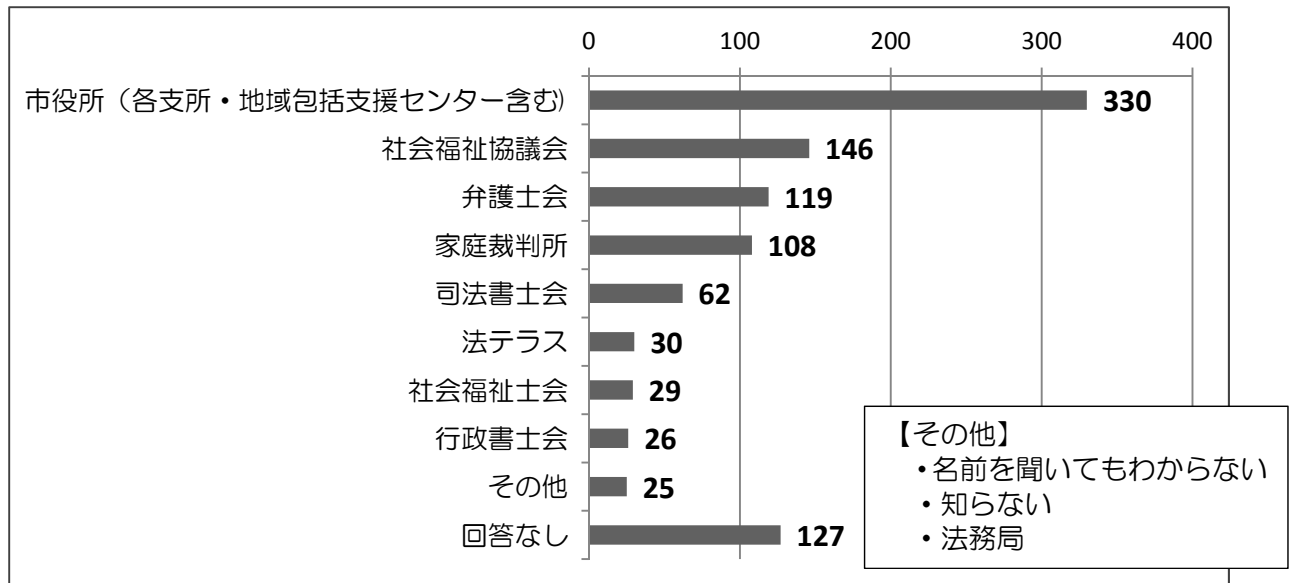
問 26 認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方のために、『成年後見制度』がある事を知っていますか。(〇は1つ)



【今回調査結果】

「よく知っている」・「多少知っている」の割合が40%。「聞いた事はあるが、内容は知らない」・「まったく知らない」の割合が51%となり、制度の認知度が広がっていないことが伺える。

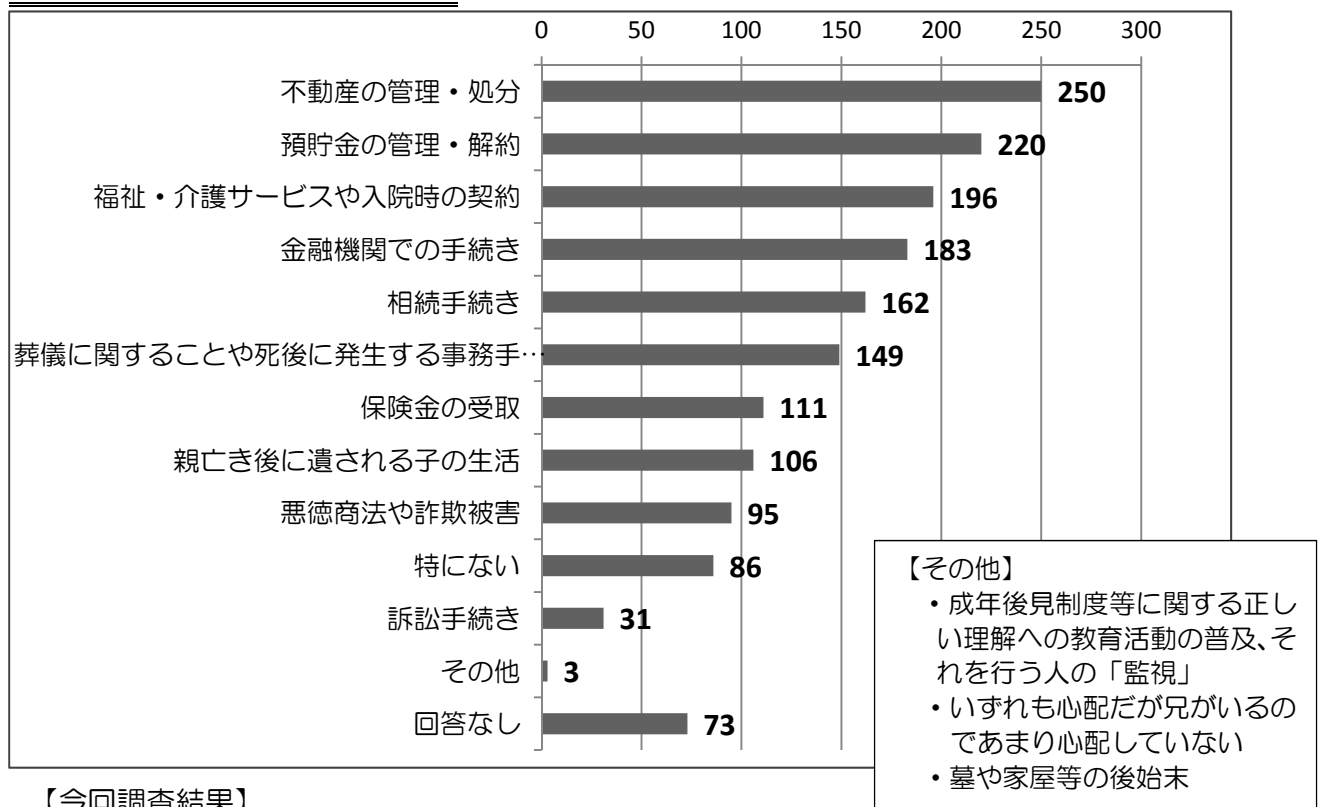
問 27 『成年後見制度』について下記の窓口などで相談に応じています。  
 この中に、相談に応じてくれる機関として知っているものはどれですか。  
 (あてはまるものすべてに○)



【今回調査結果】

「市役所」行政機関が最も良く知られており、「社会福祉協議会」・「弁護士会」・「家庭裁判所」が続く。

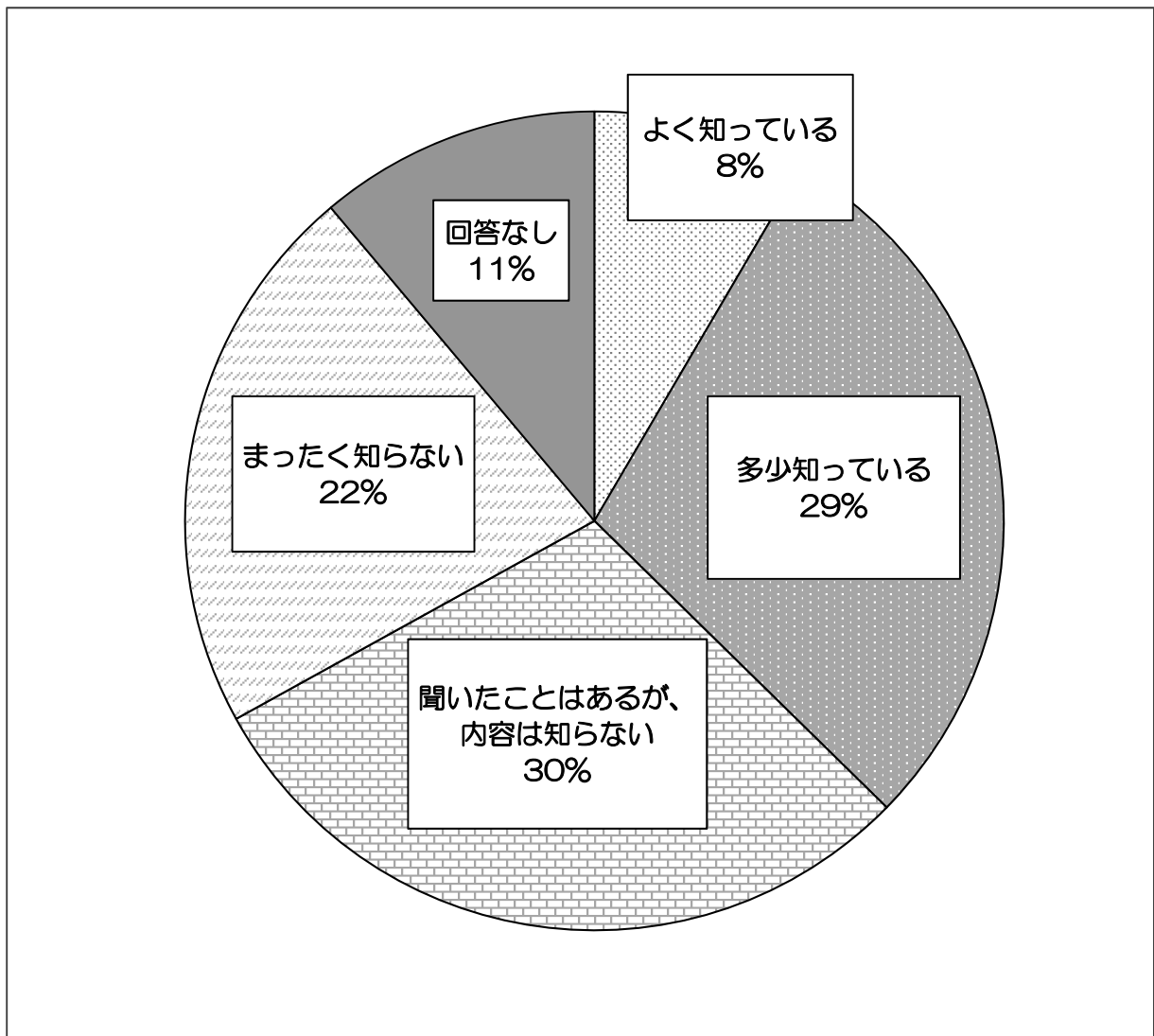
問 28 あなた自身や身近な方について、判断能力が不十分な状態になったとき困るであろうこと、または実際に困ったことが以下の中にありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)



【今回調査結果】

「不動産の管理・処分」が最も良く知られており、「預貯金の管理」・「福祉・介護サービスや入院時の契約」が続く。

問 29 罪を犯した人などの再犯防止及び社会復帰支援や、これらの取組について地域への理解と協力を得るための活動（更生保護）を地域で支える団体『保護司会（更生保護団体）』がある事を知っていますか。（○は1つ）

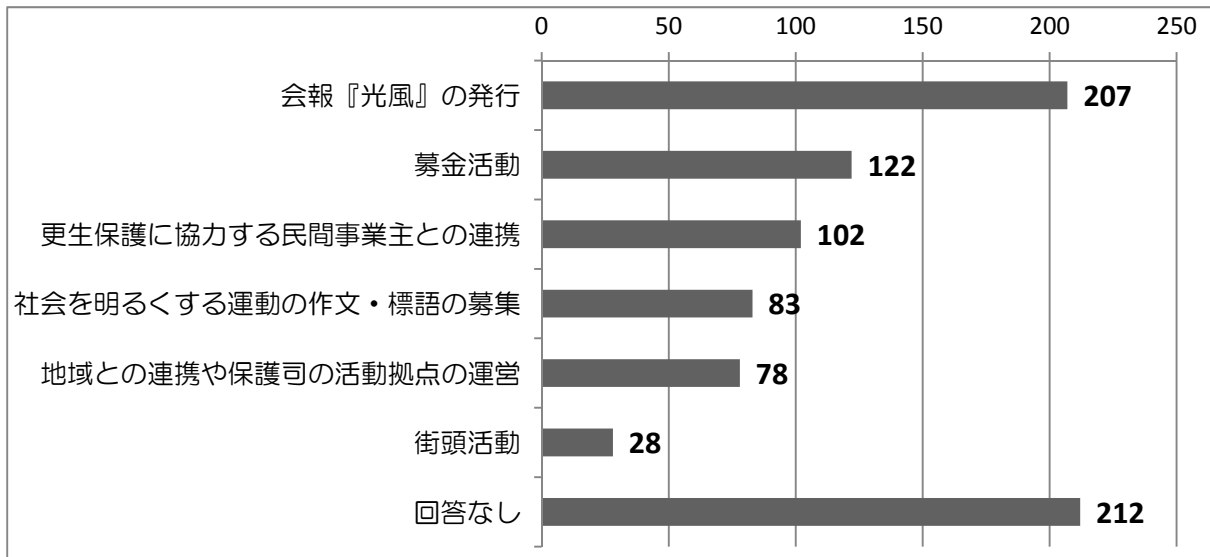


【今回調査結果】

「よく知っている」・「多少知っている」の割合が37%。「聞いた事はあるが、内容は知らない」・「まったく知らない」の割合が52%となり、取組の認知度が広がっていないことが伺える。



問 30 『保護司会（更生保護団体）』の普及活動について、知っているものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

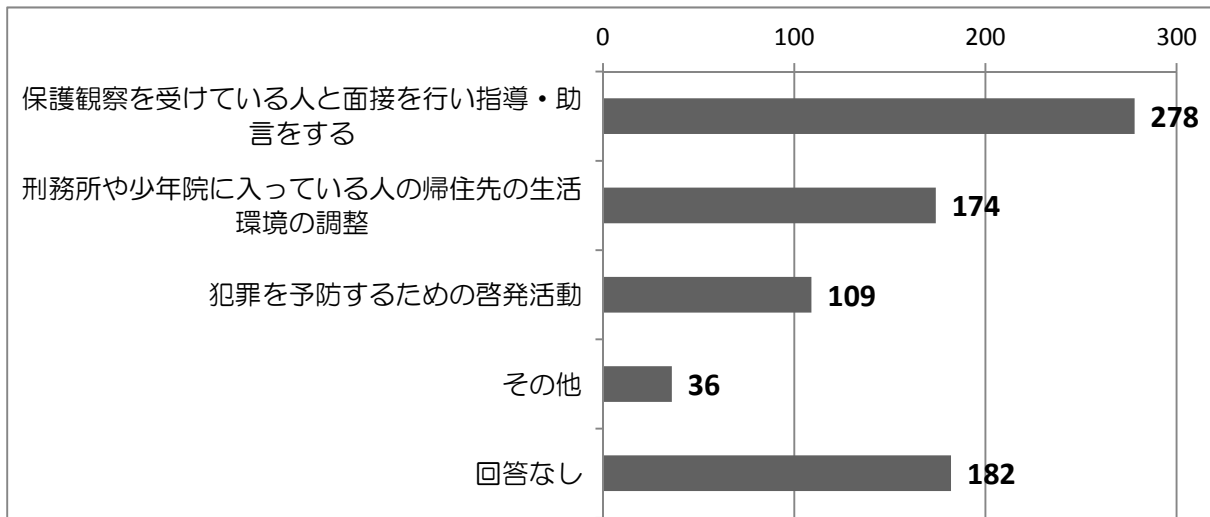


【今回調査結果】

「会報『光風』の発行」が最も良く知られており、「募金活動」・「更生保護に協力する民間事業主との連携」が続く。

問 31 『保護司会（更生保護団体）』の役割について知っていますか。

（あてはまるものすべてに○）



【その他】

- ・知らない
- ・興味がない
- ・内容はわからない
- ・あまりよくわからないが、人を指導することは大変だと思う
- ・より進める事大切！特に小中高生対象に
- ・活動している方々の話を直接聞いたことがないので知らない

【今回調査結果】

「保護観察を受けている人と面接を行い指導・助言をする」が最も良く知られている。